

解答例の使い方

完成文の暗記ではなく、条件と伝わり方を確認

答えを写す前に、自分の文章と例の違いを見つけましょう。別の経験や立場でも、問いに答え、条件を満たして説明できていれば認められます。

各問の「確認基準」は、この教材の振り返り用です。自分・読み手・先生が、それぞれ「できた／一部できた／直したい」で見取り、次に直す点を一つ決めましょう。合計点や全国共通の合格基準を示すものではありません。

作文例は、問題と同じ20マス・9mmの原稿欄に配置しています。「使用マス数」は段落頭の空きや途中の改行後までの空きを含み、本文だけの文字数とは別に表示します。数え方は学習ポイントと問題の冒頭を確認してください。

基礎の解答例

問いに合う別の表現も認める

問1 使用マス数を計算する

解答例 ア：冒頭の空白一＋文字十二＝十三マス。

イ：最初の行二十＋次の行の空白一＋文字六＝二十七マス。

考え方 文字の総数はどちらも十二字ですが、段落変更によって使用マス数が変わります。字数調整は、原稿用紙の配置まで確認して行います。

別の答え方 イを「二行目の七マス目で終わるため、二十七マス」と説明してもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・アを十三マスと数えている。
- ・イを二十七マスと数えている。
- ・文字数と使用マス数の差を説明している。

問2 一つの中心を選ぶ

解答例 中心：役割を決めるには、各仕事の意味を共有する必要がある。

材料：必要な仕事と役割を話し合ったこと。担当が分かれて準備が進んだこと。

考え方 文化祭全体を説明するのではなく、役割調整に焦点を絞っています。行動と結果を残せば、結論の根拠を短く示せます。

別の答え方 「希望を聞くだけでなく、全体で必要な仕事も確認したい」という中心でもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・中心が一つに絞られている。
- ・行動と結果の両方を選んでいる。
- ・中心から離れた材料を入れていない。

基礎の解答例

問いに合う別の表現も認める

問3 配分を考えて構成する

解答例 背景：四十マス。見学先を増やしすぎた。

行動と結果：百二十マス。移動時間を調べ、訪問先を絞り、展示の時間を確保した。

考察：四十マス。目的に応じた優先順位が必要だ。

考え方 背景を短くし、どの判断が何を変えたかに長さを使っています。二・六・二行は今回の計画であり、唯一の正しい配分ではありません。

別の答え方 背景二十・行動と結果百四十・考察四十などもよい。合計二百マスとし、行動と結果に半分以上を使い、経験から考察へつなげる。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 合計二百マスで、行動と結果に百マス以上を配分している。
- ・ 行動と結果を対応させている。
- ・ 考察が経験から導かれている。

問4 重複を削って意味を保つ

解答例 班員全員が、自分の案を付箋に書いた。その結果、話合いで全員の案を並べて比較できた。

考え方 「全員」と「一人も残らず」、「書いて」と「記入」、「比較して」と「比べる」の重なりを減らしています。行動と結果をつなぐ表現は残しています。

別の答え方 全員が付箋に案を書いた。案を並べることで、共通点や違いを比較できた。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 行動と結果の意味を残している。
- ・ 重複を二か所以上減らしている。
- ・ 二文のつながりが自然である。

標準の解答例

問いに合う別の表現も認める

問5 短すぎる説明に根拠を足す

解答例 小学生への部活動紹介で、練習名だけでは意味が伝わらないと指摘され、具体的な動作に言い換えた。この経験から、相手の知識を想定して説明を選ぶ必要があると考えた。

考え方 何が問題で、どう直したかを足すと、結論に根拠ができます。まだ聞き手の反応は確認していないので、修正の成功までは書いていません。

別の答え方 結論を最初に置き、その理由として紹介文を修正した経験を続けてもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・問題と変更内容が具体的である。
- ・追加した説明が中心を支えている。
- ・確認できていない効果を断定していない。

問6 削ってはいけない限定を選ぶ

解答例 イを削る。壁の色は、方法の効果の説明に関係しないからだ。

「今回の班では」は、確かめた範囲を示すため残す。

考え方 限定を削ると、結果がすべての班に当てはまるように読まれる場合があります。文字数だけを優先せず、事実の範囲と次の検証を残します。

別の答え方 残すべき限定を「今回」とし、たまたま一度の結果を普遍的な効果に広げないため、と説明してもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・イを選んでいる。
- ・中心との関係で理由を述べている。
- ・限定を残す意味を説明している。

標準の解答例

問いに合う別の表現も認める

問7 推敲の順序を決める

解答例 削る候補：昼食のメニュー。

残す材料：準備物と順序の追記、後任による確認と修正。

修正後：使用マス数を数え直し、資料を直した理由と方法が伝わるか読む。

考え方 一つの材料を削れば必ず二百マスに収まるとは、下書き全体がないため判断できません。実際に直して数え直し、必要な説明まで消えていないか点検します。

別の答え方 脱線を削っても長い場合は、意味の重なる語を減らす。それでも長ければ、具体例を一つに絞る。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 削る候補が中心から離れている。
- ・ 改善の行動と確認を残している。
- ・ 長さと内容の両面を再確認している。

問8 判断と結果を二百マスに収める

応用 | 使用マス数 180～200マス

解答例 使用マス数 193／本文の文字数 193（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	文	化	祭	の	準	備	で	、	希	望	す	る	係	が	重	な	り	、	目	20
立	た	な	い	仕	事	の	担	当	が	決	ま	ら	な	か	っ	た	。	そ	こ	40
で	、	必	要	な	仕	事	を	一	覧	に	し	、	そ	れ	ぞ	れ	が	本	番	60
を	ど	う	支	え	る	か	班	で	話	し	合	っ	た	。	す	る	と	、	道	80
具	の	確	認	や	会	場	の	整	備	に	も	役	割	が	あ	る	と	分	か	100
り	、	担	当	を	分	け	て	準	備	を	進	め	ら	れ	た	。	こ	の	経	120
験	か	ら	、	希	望	だ	け	で	役	割	を	決	め	る	の	で	は	な	く	140
活	動	全	体	に	必	要	な	仕	事	の	意	味	を	共	有	す	る	こ	と	160
が	大	切	だ	と	学	ん	だ	。	次	の	行	事	で	も	、	担	当	を	決	180
め	る	前	に	目	的	を	確	か	め	た	い	。								200

考え方 背景から考察までを一つの中心でつないでいます。単に「協力できた」とせず、仕事の意味を共有した行動と、担当が分かれた結果を残しています。

別の答え方 結論が「互いの得意なことを確かめたい」なら、得意なことが分担にどう役立ったかの具体例を根拠にする。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 指定の使用マス数と一段落を守っている。
- ・ 判断や行動と結果が対応している。
- ・ 考察に具体的な根拠がある。
- ・ 脱線や意味の重複を抑えている。

問9 段落の空白も含めて整える

応用 | 使用マス数 180～200マス

解答例 使用マス数 182／本文の文字数 179（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	校	外	学	習	の	計	画	で	、	行	き	た	い	場	所	を	す	べ	て	20	
予	定	に	入	れ	た	。	し	か	し	、	移	動	時	間	を	調	べ	る	と	、	40
見	学	時	間	が	ほ	と	ん	ど	残	ら	な	か	っ	た	。	そ	こ	で	、		60
学	習	の	目	的	に	合	わ	せ	て	訪	問	先	を	絞	り	、	最	も	調		80
べ	た	い	展	示	に	時	間	を	使	え	る	よ	う	に	し	た	。				100
	こ	の	経	験	か	ら	、	計	画	は	希	望	を	並	べ	る	だ	け	で		120
は	成	り	立	た	な	い	と	学	ん	だ	。	後	輩	に	は	、	先	に	目		140
的	を	決	め	、	移	動	な	ど	に	必	要	な	時	間	も	十	分	に	調		160
べ	た	う	え	で	、	何	を	優	先	す	る	か	話	し	合	っ	て	ほ	し		180
い	。																			200	

考え方 予定を減らしたことを失敗として終わらせず、目的を達成するための判断として説明しています。二段落目の助言は、一段落目の具体的な問題に対応しています。この例では、一段落目の末尾に残る2マスも数えます。

別の答え方 助言を「必ず行く場所と、余裕があれば行く場所に分ける」としてもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 指定の使用マス数と二段落を守っている。
- ・ 変更の理由と結果が読み取れる。
- ・ 経験に対応する具体的な助言がある。
- ・ 段落末の空白を含めて数えている。

問10 二百マスちょうどに推敲する

応用 | 使用マス数 200マスちょうど

解答例 使用マス数 200／本文の文字数 199（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	合	唱	練	習	で	声	が	そ	ろ	わ	ず	、	各	自	が	大	き	な	声	20
を	出	し	て	も	改	善	し	な	か	っ	た	。	そ	こ	で	、	班	で	録	40
音	を	聞	き	、	歌	い	始	め	る	位	置	が	ず	れ	て	い	る	と	確	60
か	め	た	。	息	を	吸	う	合	図	を	決	め	て	練	習	す	る	と	、	80
入	り	方	が	そ	ろ	っ	た	。	こ	の	経	験	か	ら	、	努	力	の	量	100
を	増	や	す	前	に	、	何	が	課	題	な	の	か	を	共	有	す	る	必	120
要	が	あ	る	と	学	ん	だ	。	ま	た	、	互	い	の	失	敗	を	責	め	140
ず	、	録	音	と	い	う	共	通	の	材	料	を	使	っ	た	こ	と	も	話	160
合	い	に	役	立	っ	た	。	今	後	も	、	結	果	を	一	緒	に	確	か	180
め	、	改	善	の	方	法	を	具	体	的	に	考	え	て	い	き	た	い	。	200

考え方 課題の確認に録音を使ったことと、合図を決めた改善を中心にしています。調整するときも、単に長さを合わせるために、結果や考察の根拠を削らないことが大切です。

別の答え方 発表、委員会、部活動などの経験でもよい。何を一緒に確かめたかと、その後の変更を具体化する。

別の答え方 短ければ判断の理由を補い、長ければ重複を削る。修正ごとに使用マス数を再確認する。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 指定の数え方で二百マスちょうどになっている。
- ・ 課題と確認方法が対応している。
- ・ 改善の行動と結果、考察がつながっている。
- ・ 長さの調整後も意味が自然で、不要な繰り返しがない。